

はくさん

日蓮聖人

ご降誕八〇〇年

第 117 号令和 3 年春号

伊豆市 法住寺 発行

今から八百年前の二月十六日、日蓮聖人がお生まれになりました。お寺では二月十三日に護持会役員さん方と慶讃、報恩の法要行いました。

聖人は災害や民衆の暮らしなどから、何故このような苦しみがうまれるのか、救うにはどうしたら良いかと、疑問が次から次と出てきます。眠る暇も惜しんで比叡山を中心に奈良や京都の寺々に学んでいきます。当時の学問の中心は比叡山で全国から英才を集めていました。そうした中でお経を読みこなし調べつくして、法華經こそが真の教えであり民衆

「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。
社会の皆さん ありがとうございます。
ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。

合掌 合掌 合掌



を救うことが出来るお経と確信していきます。

法華經の教えの中心は「久遠くおんのご本仏ごほんぶつ（ご本仏）」ということです。ご本仏は想像できないほどの遙かな過去世からあり続け、今もあり、未来にもあり続けている。そしてこの世を善くしよう善くしよう、民衆を慈しもうと輝き続けているのです。今から約二千五百年前にインドの地で活躍されたお釈迦さまの本体はご本仏そのものと法華經は説きます。このお経（法華經）こそが真の教えと確信された日蓮聖人は、これを伝え広めていくのが使命と奮闘します。しかし鎌倉時代の当時は法華經がないがしろにされていて、それが国の乱れる原因にもなっていたのです。こうした状況を立て直すために立正安国論という書きものにして幕府に進言したのですが、受け入れられるどころか伊豆の法難など迫害を受ける身になります。



二十数年前のことを思い出します。学寮の百名ほどの学生さんが伊豆法難の地を行脚する、その中に洋明がいる。これは又とないご縁とバス一台満席の檀

平成 11 年 12 月学寮生の伊豆行脚
地湧の菩薩を直感、感動でした



信徒の皆さま

んと、川奈の港でお迎えした。当日は晴天で空も海も紺碧、その中で今か今かと待ちます：そのうち向こうの方から聞こえるか聞こえないかの音

が：：と思ったら消えて：：おっ太鼓の音だ：：また小さくなる。今度は確かな音になって姿も岬の先に小さく見えてきた。つづら折りの岬をまわること太鼓の音は響き渡り、お題目の大音声も聞こえ、ついに目の前に地響きと共に現れた。学生さんたちもこんなにも大勢が手を合わせてが迎えてくれたと感激、私たち一行も胸いっぱいこみ上げ涙したのだ。お経の中には特別な空間が出現することが何回か説かれているが、まさにその特別な空間、地湧の菩薩の出現だった。



ご本仏は末法の世に直弟子を遣わして世を善くしようとはしますが、その遺命を受けて出現するのが地湧の菩薩です。

日蓮聖人は大難四回、多くの法難にあう中で、お経に示されている通りのことが自分の身に起こってくる、何故か。極寒の佐渡の地等で沈思、それは私自身が遙かな過去世にご本仏から民衆を救うようにと命令されていたからだ、私は地湧の菩薩だったのだと全身全霊をもって感応し信じ入り、廣大無辺な宇宙空間の真理と悟られたのです。

では民衆を救うにはどうすれば良いか。それには難しい修行が必要なのか、具体的にはどうやって民衆に伝えられるか。何度も何度もお経に求め、法難にあい、遂にたどり着いたのが「南無妙法蓮華経」のお題目だったので。お題目を一心にお唱えすれば、私たちの究極の願いである靈山浄土に至ることができ。そこにはお釈迦さま、日蓮聖人をはじめ皆さん方のご先祖さまもいらっしゃる。靈山浄土は一切の苦悩から解放され心から安らいだ世界。そこへは死んでから行くのではない、今ここに現前してあるが、様々な迷い等により気付けられないのだと悟られたのです。

こうした悟りは合理的な考えでは理解出来ないでしょう。合理は大切にしつつも、合理・科学を包み込む大きな「信ずる」という世界をもち、実際にお題目をお唱えし活動していくことで実感し身に染みてくるのです。ますます混迷するこの世で幸せに生きてまいりましょう。それには心の大黒柱が欲しい、ゆるぎなく信ずる世界が必要になります。お題目を更に確かなものしてまいりましょう。未だと云う方は、今これを読んで下さっているご縁によってお題目をお唱えしてまいりましょう。

日蓮大聖人御降誕 南無妙法蓮華経

心の引き出し

私は小さな商いを営む家に育ちました。その中で経済的に「一番いい時」と「一番苦しい時」を経験することとなったのでした。思えばあれほど一番辛く苦しい時に足がつけば後はのぼってゆくだけの勇気が湧いたことを、今コロナ渦で苦しんでいる方々に伝えたい。そんな想いです。

お寺の庭に花いっぱい
昌子寺庭の山務日誌より



「ずっと昔、あるお上人さんから「人間には

ね、心の引き出しがいくつかあって、そのひとつを空っぽにしておくんだ。そして本当に嫌なことをその引き出しに入れるんだ。ところが全部の引き出しに、いっぱいいいいぎゅうぎゅうにつめ込んでおくと、引き出しを開けることもできないんだよ」と聞いた。それはあれもこれもと頑張り過ぎていた私への良薬となった。もう三十年も前の話だ。

今私の心の引き出しには懐かしく優しく今はもう会えない方も居るが、心温まる想い出がいっぱいだ。泣いたり笑ったりもしたが、ひとりその想い出を引っ張り出しては又自分を慰めることもできる。そして又前に進むこともできる。



私も六十九歳となつて、出来るだけすき間をうめる様な仕事をして少しでも誰かの役にたてたらと思う。大それたことは出来ないが感謝の気持ちを持

ちながら。それが私の「たしなみ」かなと思っ
ている。さあ皆さん出来るだけ笑顔で過ごし
ましょう。そして若い人をほめていきましょ
う。

星祭

1月末の星祭、コロナ感染予防で1回のご
祈祷は定員30名、5回に分けてのご祈祷でし
た。予約制でなかったのですが分散して行う
ことが出来ました。ありがとうございました。
住職は受付係で、いろいろな方にお会いで
き嬉しく良い1日でした。

「あアゝすごかったア 山門から石段を上っ

てきたの」と輝く笑顔、「苔もむして きれい
になつてゐるウー」とご婦人が感激して受付で
す。諸天善神さまがお通りになるので、山門か
ら石段と気持ちを込めて掃いておいたのです
が私もニコニコ。このご婦人は小さい頃はこ
の本堂前の石段を上り下りしていて久しぶり
にのぼつてきたのでした。約八十段伊豆の真
石、施工もみごとなものですよ。

最後の回の受付をしていると、何とも懐か
しい方が玄関に立っています。よく来てくれ
ました!! この方とは長い間苦楽を共にして
きたのですが、体の具合でお寺に來られな
かったのです。ゆっくりゆつくりと歩きなが
ら

以前と変わらぬ笑顔、
素敵でした。

境内整備作業

境内作業を皆さんと
共にやってきて、おか
げさまで野の花の寺と
も云われ良いお寺にな
つてきました。歳と共
に作業が出来なくなつ
たり、お勤めの関係で
出られなかったり、ご

苦勞おかけしてありますが、出来る方、出られる
方々で、これからも続けてまいりましょう。

作業は単に整備する、きれいにするだけが
目的ではありません。皆さんが「私のお寺」と
いう気持ち持つてもらいたいという願いがあ
ります。作業は大変ですが、ここは何百年と続
いている地域のシンボリックな場所であり、私
のご先祖さまが祀られている、何より作業す
ればせいせいとして気持ち良くなります。「こ
こは私のお寺」なのです、またそういう気持ち
を持つことは地域づくりそのものであり、私
はこの地域の人間だという安心感、連帯感に
つながると思います。とかく孤立しがちな世
の中で田舎と云えども隣は何をする人ぞにな
りかねません。隣人の幸せを共に喜び、隣人の
不幸を共に悲しむことが、この地域の温かさ
であり誇りではないでしょうか。都合の悪い
時は「ああいいよ。そういうこともあるさ、大
丈夫だよ」、そんな気持ちでお互いを認め合っ
て、出られる方が出来る範囲でやってまいり
ましょう。宜しくお願い致します。

今年の境内整備作業

3月 8時30分 清水② 雑木処理
7月 8時 元村ハ班 草刈り
9月 8時 元村一班 草刈り



今年の星祭、新型コロナウイルス感染対策をしながらも無事に行うことが出来ました。娑婆世界では諸々あるうとも、仏天に対してはいつもと何ら変わることなく真っ直ぐに感謝申し上げ、仏天と皆さんを繋ぐパイプ役としてご祈願をお届けすることが出来ましたこと、これは何より皆さんのお陰様です。本当に有難うございました。やはり皆さんの思いあつての星祭、皆さんあつての法住寺。



先日、ある檀家さんからメールが届きました。「身延山久遠寺ナウ。掲示板に【日蓮聖人のお言葉 有信無解とて解はなくとも信心あるものは成仏すべし 新池御書】とあるのですがどういう意味ですか？」というメッセージ。「簡単に申し上げますと、【お題目、お経の

意味はわからなくても信ずる心があれば大丈夫】という意味です。」というざっくりした内容を返信致しました。

実はこのメールを頂いた時、荒行中の先輩僧のある言葉を思い出しました。「もし自坊に戻った時、法要・法話・御祈祷中に寝ている檀信徒がいたら起さずそのままにしてあげなさい。このお題目、法華経の功德は目や耳だけじゃなく毛穴から入っていくから大丈夫。」

確かにお題目、法華経は言霊です。私にとつては頭で理解するどころよりも魂に響くものです。例えるなら、風邪をひいた患者さんがお医者さんに薬を処方してもらいます。しかし患者さんはその薬の成分や効能がわからなくても、ちゃんとその薬が効くのと同じ。実は仏天がお医者さんで、患者が私たち、最高の良薬がお題目、法華経ということ。よくわからなくても効く、意味がわからなくても大丈夫です。すこい。



毎朝本堂でお題目をお唱えしてあることに気が付きました。それは、どんなことがあろうとも正面の御本尊さまの世界（仏天の世界、魂の故郷）はいつも変わらないということ。計り知れない遙か遙か昔からいつも同じ。し

かし、いざお題目を唱え終わって振り返るとそこには目に見える耳に聞こえる娑婆世界。新型コロナウイルスのこと、身上の不満、不安、迷いが見え聞こえてくる。すると自分たちの心は上に行ったり下に行ったり右往左往。あまりにも右往左往し過ぎると何処が本来の心の置き所なのか？気持ちの標準地点がわからなくなってしまう。

そんな時は、この法住寺にはいつも同じ変わらない御本尊さまの世界があること知っておいて下さい。こんな時代だからこそ、法住寺の本堂でどんな時でも変わらない仏天の世界と向かい合つて心の一番良い置き所を思い出して下さい。いつも同じであり、どんな時も変わらないものがあること、それが「心の大黒柱」。何で変わらないの？何がいつも同じなの？が理解出来なくてもわからなくても大丈夫。来ればわかる！向かい合えばわかる！ここでお題目をお唱えすると頭でなく理屈でなく魂がそれをわかる。

若輩者ながら生意気に何だか偉そうな言葉を並べてしまいました。それに私も僧侶の端くれ、わからなくても大丈夫と安心せず、皆さんにこの良さをもつともつと伝えられます様に行だけでなく学も常精進！

御志納金「一月〜二月」

西	佐藤雄一殿	報恩感謝
清水	小塚健治殿	尊父葬儀砌
西	杉山博幸殿	尊母葬儀砌
上和田	北井幸子殿	尊母永代供養砌
伊豆の国市	真田和良殿	尊父十三回忌砌